

問**「まちなか」を創る
立地適正化計画とは**

本計画は、ネットワーク型コンパクトシティの形成を公と住民と企業等が一体となり進め、空洞化を防止するまちなかづくりとしての活用が可能だ。本計画の効果を発揮させるには、都市機能誘導区域や居住誘導区域の絞り込みとその誘導策にかかっているが見解は。

答**将来を見据えた
誘導区域を設定していく**

立地適正化計画の策定に当たり、誘導区域の位置や規模は最も重要な検討事項である。

都市再生特別措置法の指針に基づき、将来における人口推計や地域ごとの人口密度、施設配置の状況等を勘案し、適正な位置に適正な規模で誘導区域を設定していく。



黒須大一郎 議員
(白岡ビジョン)



現在の白岡中央総合病院

問**病院開設に市税を
投入するメリットは**

市税を投入する以上、市も病院の経営状況をウォッチングしていくとともに、これまでの白岡中央総合病院と違う何か。例えば、併設する保育室を認可保育園等とし、病児保育や障がい児保育も受け入れていただくなど、新たな利用者サービスを提供できないのか。

答**最大のメリットは
二次救急の維持である**

病院の経営状況等の確認については、既に上尾中央医科グループ協議会と調整を行っており、事業報告等を用いて確認することとしている。最大のメリットは二次救急医療の維持等であるが、新病院が市民や地域に貢献する施設となるよう病院側に働き掛けていく。

問**マスクを着けられない方
への支援**

障がいや病気など様々な理由により、マスクを着用できない方がいる。その方々への支援の記事と、マスクが着用出来ないことを周囲の方へ周知する缶バッジとカードがあることを、市ホームページに掲載し、市民に広く周知すべきと考えるがいかがか。

答**理解を求める内容を
掲載し周知していく**

触覚、嗅覚などの感覚過敏や障がいの特性などから、マスクが着けられない方がいることや窓口において、ヘルプマークと併せ、缶バッジとカードの配布を行っていることを市公式ホームページに掲載し理解を求め、周知を図っていく。



中山廣子 議員
(公明党)

問**带状疱疹を
予防するために**

たいじょうほうしん
带状疱疹という疾患のこと、また、带状疱疹ワクチンがあり、予防できることを広く周知・啓発をする必要があると考える。そして、市民の健康を守る観点から、带状疱疹の予防接種に助成をしてはいかがか。

答**带状疱疹の必要な情報を
周知していく**

带状疱疹という疾患についてや、带状疱疹ワクチンについて、市公式ホームページや広報紙などを活用して周知を図っていく。また、現時点において、接種費用の助成を行うことは予定していないが、国の動向を注視していく。

